

第 24 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム 論文原稿作成要領

1 原稿の作成

論文・Paper は原則として、投稿者より提出された pdf ファイルに論文番号とページ数だけを付加してグレースケール印刷します。この印刷方法では、基本的に投稿者より提出された電子データが、そのまま印刷されますので、後述の「4 テンプレートによる原稿の様式」または「5 テンプレート以外で作成された原稿の様式」を参照のうえ、原稿を作成して下さい。

2 原稿の提出

投稿時の提出書類は全て pdf ファイルにしてメールに添付し、メールの件名に受付番号を記載し、ご提出ください。

sead24@eng.u-toyama.ac.jp

論文原稿提出期限は、3 月 16 日(金) です。期限をすぎた場合は、取り下げとなります。

3. 言語・ページ数の制限

- (1) 本文は日本語または英語に限ります。
- (2) ページ数の制約 2, 4 あるいは 6 ページ。

4 テンプレートによる原稿の様式

MS-Word 用テンプレートを用意しております。シンポジウムホームページ,
<http://kiki.eng.u-toyama.ac.jp/sead24/>から入手できます。なお、ホームページへアクセスできない場合は、事務局へメールにてお問い合わせ下さい。

また、下記の点に注意のうえ利用して下さい。

- (a) 図、写真は EPS 形式で電子的な形で原稿中に取り込むこと。また、グレースケール印刷に配慮したカラーバランスで作成すること。
- (b) 配布されたテンプレートを修正しないこと。

5 テンプレート以外で作成された原稿の様式

通常の A4 判用紙を使用し、以下に記載の「6 原稿の書き方」に従って作成して下さい。この場合、図、写真、表などは、原則として所定の位置に配置して下さい。

6 原稿の書き方

- (1) 本文 1 ページ目のスタイル
 - (1.1) テンプレートを参考に次の順序で作成して下さい。

(a) 表題 (40 文字以内)

- ・ 1 行の場合は, 原稿用紙 4 行目中央に記入すること。
- ・ 2 行にわたる場合は, 原稿用紙 4 行目~6 行目に適当な配置で記入すること。

(b) 氏名

- ・ 表題から 1 行あけて記入すること。
- ・ 1 行に 2 名までは横に並べて記入してもかまわない。
その場合の順番は, 第 1 行左, 第 1 行右, 第 2 行左, ...となる。
- ・ 著者の所属・連絡先は第 1 ページ目左欄の脚注に, 日本語・英語の併記で記入する (詳細はテンプレート参照)。

(c) 英語による表題・氏名

- ・ 左右の空白を 3 字分以上あけること。
- ・ 著者所属・連絡先は第 1 ページ目左欄の脚注に記入すること (詳細はテンプレート参照)。

(d) Abstract (英語 : 150~200 語以内)

- ・ 左右の空白を 2 字分あけること。

(e) キーワード

- ・ 左の空白を 2 字分あけること。

(1.2) キーワード

論文内容を 6 つ以内のキーワードで表し, 1 語ずつカンマで区切って下さい。
選定の要領は次の通りです。なお, キーワードは日本語と英語の併記とする。

- (イ) 具体的な意味のある語句を選ぶ。
- (ロ) 名詞形を用いる。
- (ハ) 省略形は海外も含めて広く通用しているものに限る (著者が作った新語は不可)。
- (ニ) 複合語は慣用されているものに限る。

(1.3) 本文の記述

本文の記述は, 内容の重要度に従い下記の順序に整理し, 章の見出しのみ 2 行分をとって下さい。

章 : 1 ○○○○

節 : 1.1 ○○○○

(1.4) 文字および文体

- (イ) 論文 : 日本語 Paper: 英語
- (ロ) 日本語は, ひらがな混じり口語体 (現代かなづかい) とし, なるべく常用漢字, アラビア数字を用いること。
- (ハ) 術語は原則として「文部省学術用語集」および電気学会「電気専門用語集」, 「電気工学ハンドブック」によること。
- (ニ) 量記号, 単位記号および図記号は, 原則として「電気工学ハンドブック」

によること（JIS: Z8202, Z8203, C0301, X0122）。それ以外に周知の略語を使用してもかまわないが、書き方は統一すること。

(ホ) 文献

- ・ 執筆者自身の関連論文のみならず、執筆者以外の参考文献を含め、適切かつ十分な参考文献をあげること。なお、論文等の内容を補足する資料を添付することはできない。
- ・ 文献は、論文等の本文末尾に通し番号をつけて一括記載し、本文中の該当箇所
に丸カッコで囲んだ引用番号を上つき文字で記入すること。
- ・ 一般に公表されていない委員会報告や社内報告などは文献としてあげないこと。
- ・ 投稿中の論文は引用しないこと。
- ・ 文献の表記は原則として英文とする。具体的表記例は次を参照のこと。

(a) 日本語論文などの場合（英語・日本語の併記）

T. Denki, M. Hanai, and G. Misaki: "Future Technology for Power System Analysis", T. IEE Japan, Vol.130-B, No.1, pp.130-136 (1999-1) (in Japanese)

電気太郎・花井桃子・岬 五郎：「電力系統解析技術の将来」, 電学論 B, 130, 1, pp.130-136 (1999-1)

注：タイトルなどに英文表記がない場合は、日本語のみとする。

(b) 国際会議などの論文集の場合

B. Yamada: "Experimental studies of new micro-mechanical vibration systems", Proc. IEEE Conf. on Micro-mechanical Component, No.21, pp.123-145, Paris, France (1999-4)

(c) 単行本などの場合

Y. Sankar: Management of Technological Change, p.10, John Wiley, New York (1991)

注：日本語単行本の表記は、上記(a)のような取り扱いとする。

なお、著者名は著者全員を、またタイトルは省略しないこと。

(1.5) 図面・写真

- (イ) 図面・写真は、電気学会の定める「投稿論文等の図面作成の手引」に従って作成する。
- (ロ) 図・写真などの表題は、英語で図面・写真の下に記載すること（「Fig.○」だけで説明のないものは不可）。
- (ハ) 図・写真中の説明は、原則として英語にすること。
- (ニ) 図・写真の番号は、通し番号とすること。
- (ホ) 図面等の挿入位置および大きさは、読者が見やすいように配置すること。
- (ヘ) 図の左右に余白があっても、本文を記載しないこと。

(1.6) 表

- (イ) 表の横幅および文字の大きさは、電気学会の定める「投稿論文等の図面作成手引」の 1,3 項に準ずる。
- (ロ) 表題は、表の上に英語で記載すること。
- (ハ) 表の番号は、図の番号と同じく、通し番号とすること。
- (ニ) 表中の説明は、原則として英語にすること。